令和7年度　第3回神戸 2030 ビジョン推進会議

日　時：令和８年３月４日（水曜）13:00～

場　所：神戸市役所１号館 14 階　大会議室

議　事　次　第

（ 配 付 資 料 ）

１　開会	資料１　神戸 2030 ビジョン推進会議委員名簿 （参考）神戸 2030 ビジョン推進会議開催要綱
２　議事	
（１）パブリックコメント結果について	資料２　パブリックコメント結果報告 資料３　神戸 2030 ビジョン（案）
（２）新たな総合基本計画の推進について	資料４　新たな総合基本計画の推進について
３　閉会	

資料１

神戸２０３０ビジョン推進会議　委員名簿

会　長（敬称略）

神戸大学大学院　法学研究科　教授	品田（しなだ）　裕（ゆたか）

委　員（五十音順、敬称略）

甲南大学　経済学部経済学科　教授	石川（いしかわ）　路子（のりこ）
一般社団法人　兵庫県中小企業診断士協会　理事	稲垣（いながき）　賢一（けんいち）
連合神戸地域協議会　議長	加藤（かとう）　明（あきら）
La vie est belle 株式会社 「おやこの世界をひろげるサードプレイス PORTO」代表	佳山（かやま）　奈央（なお）
iC 株式会社　代表取締役	佐合（さごう）　純（じゅん）
関西福祉科学大学　社会福祉学部社会福祉学科　講師	竹内（たけうち）　友章（ともあき）
特定非営利活動法人 Oneself　理事長	中野（なかの）　みゆき
株式会社三井住友銀行　公務法人営業第二部　部長	中村（なかむら）　浩一郎（こういちろう）
P&G ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ合同会社 代表社員職務執行者 P&G R&D ｳﾞｧｲｽﾌﾟﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ　神戸研究所所長　ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ研究所長	中村（なかむら）　優子（ゆうこ）
西日本旅客鉄道株式会社　理事 （近畿統括本部副本部長・兵庫支社長）	平田（ひらた）　恭子（きょうこ）
Artist in Residence KOBE（AiRK） 一般社団法人 ハイム　代表理事	松下（まつした）　麻理（まり）
一般社団法人兵庫県中小企業家同友会　代表理事	村川（むらかわ）　勝（まさる）
兵庫県立大学環境人間学部　教授	山瀬（やませ）　敬太郎（けいたろう）

パブリックコメント結果報告

資料２

○募集期間：2026 年１月 24 日（土曜）～2026 年２月 22 日（日曜）

○ご意見数：３通（３件）

※ご意見の内容は趣旨を損なわない程度に要約しています。

①文言の修正等にかかるもの

	意見の概要	市の考え方
1	大学発スタートアップは単なる起業の一形態ではなく、大学の研究開発が創出するイノベーションと人材育成の結節点であり、経済成長への波及効果が大きいため、設定理由にその役割を表現し､各大学がKPI達成に向けてコミットするべき。 ＜修正案＞ 知の拠点である大学が創出するイノベーションや人材を活用し、新たな価値を生み出す「大学発スタートアップ」は、地域における経済成長のエンジンであり、産官学が一体となって支援・育成することが、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に直結するため、その進捗を測る指標として設定。	大学発スタートアップの創出数をKPIに設定した主な理由は、多くの大学を有する神戸の強みを活かし、地域経済の成長や新たな価値を生み出すことであるため、いただいたご意見を踏まえ、設定理由を下記のとおり修正します。 ＜修正後＞ 知の拠点である大学が創出するイノベーションや人材を活用したスタートアップを産官学一体で支援・育成し、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、その進捗を測る指標として設定。
2	市民による自主活動に注目し、計画に取り入れたことは高く評価致しますが、地域活動の活性度のＫＰＩは、「地域貢献相談窓口を通じた伴走件数」「ぼらくる登録者数」を合わせた複合指標には、不十分な点がある。 この指標では、市役所に登録している市民活動しか測れない。 行政から自立して活動を行っているような市民活動の方が、本来的な意味では､「自治」に近いはずです。窓口に来ない、あるいは自立して運営できている「優秀な団体」ほど、この指標からこぼれ落ちてしまうというパラドックスが発生するのでは。 まずは、市民の自主活動の実態を、調査研究することが必要なのではないか。 また、神戸市全体の市民活動の活発度（自治の体温）を測る指標が必要と考える。地域の自治会、地縁団体、NPO,NGO,公益法人、宗教法人、一般法人、協同組合、任意団体、公民館、市民的活動を	行政と関わらずに自立した活動を行う団体を含め、あらゆる地域活動が、本市にとって重要なものと認識しており、神戸2030 ビジョンの上位計画である基本計画では、「多様な人々が地域でつながり支え合い、誰もが安心して自由に挑戦でき、主役になれるまちを実現する」ことを方向性として掲げています。 一方、神戸 2030 ビジョンの KPI は、上位計画である基本計画の数値目標（KGI）の達成につながり、毎年、数値を把握でき、市の施策によって改善が期待できる指標を選定することを方針とし、外部有識者と議論を重ねながら、現在の KPI を選定しています。 ご意見いただきましたとおり、本市としても、地域活動の実態把握は重要と考えており、自治会やNPO法人等を対象とした実態調査を３年に１度実施し、地域活動の状

	行う個人・グループ等、神戸市は全く把握できていないのではないかと危惧している。コープこうべや神戸医療生協、須磨寺など、注目すべき活動を行っている団体はたくさんある。 原案の指標は、地域協働局に投入した税金が無駄遣いされているか有効活用されているかどうかを測定するには役に立つかもしれないが、これで神戸市の市民活動水準を測れると思ったのであれば大間違いだと思います。神戸市域全体のソーシャルキャピタルを測定する指標・手法はあるのか。また、関係人口も含めた市民活動水準を測定する指標・手法はあるのか。ないのならば、研究開発するべきではないか。	況や課題等の把握に努めていますが、行政との関わりがある団体が中心となっているのが現状です。 今後も、行政と関わらずに自立した活動を行う団体を含め、様々な地域活動が活発となるよう、基本計画の方向性にそって施策を進めるとともに、その効果の測り方についても研究していきたいと考えています。

②具体的な事業等に関わるもの

	意見の概要	市の考え方
1	明石市以上に子育て支援に注力しなければ、神戸市の人口減に歯止めをかけることは難しい。 神戸市の人口減は市だけの努力では限界。大阪をライバル視するあまり、阪急の新神戸駅への接続を断った判断ミスの影響も大きいのではないか。神戸単独主義の驕りがあったようにも感じており、住みやすさ１位で西宮市に負けている。 今後は、世界各国から観光客が訪れるよう、村上春樹記念館やジャズ博物館、太秦映画村のようなアミューズメント施設など、ソフト面も兼ね備えた施設を整備すべき。立地は交通網に課題のあるポートアイランドや、閑散としている新神戸駅周辺。あわせて、宇都宮 LRT のような交通機関を導入すれば打開策になる。大阪から観光客を奪う計画を立てるべき。	ご意見としていただいた「子育て支援」や「観光」はいずれも本市にとって重要な取組みであると認識しています。 そのため、神戸 2030 ビジョンでは、「子育て支援」について、「子育て環境の充実」等を主な施策として掲げ、誰もが安心して子育てできる環境づくりを進めていきます。また、「観光」についても、「観光誘客の推進」等を主な施策として掲げ、神戸の多彩な魅力を活かし、国内外から多くの来訪者がつどい、賑わいある都市の実現を進めていきます。 なお、個々具体の事業は、神戸 2030 ビジョンで掲げる施策の方向性と直近の社会情勢等も踏まえながら、毎年の予算編成で具体化していくことから、いただきました個別事業に関するご意見も参考に、より効果的な事業を検討していきます。

資料３

神戸 2030 ビジョン
（案）

神　戸　市

（目次・構成）

第１章　序論

１　実施計画の策定にあたって
（１）背景
（２）地方版総合戦略との位置づけ

２　神戸市基本構想
（１）全文
（２）神戸らしさ
（３）ありたい姿

３　第６次神戸市基本計画 －2035 年の神戸－
（１）10 年後の都市像
（２）都市像を実現するための方向性

第２章　実施計画

１　概要
２　基本計画に掲げる方向性と施策
方向性Ⅰ　世界と繋がる２つの港「新たな時代の国際都市」へ
（１）基本政策と主な施策
（２）KPI

方向性Ⅱ　個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ
（１）基本政策と主な施策
（２）KPI

方向性Ⅲ　ともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ
（１）基本政策と主な施策
（２）KPI

第１章　序論

１　実施計画の策定にあたって

（１）背景

神戸市の総合基本計画である「新・神戸市基本構想（1993 年策定)」、「第５次神戸市基本計画（2011 年策定)」及び「神戸 2025 ビジョン（2021 年策定)」は、いずれも 2026 年３月に計画終期となります。

全国的に人口減少や少子・高齢化が進む中、未来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくためには、市民と行政が目指すべき神戸の姿や方向性を明確にし、長期的な視点をもって、ともに運営していくことが求められます。

そのため、本市においては、新たな総合基本計画の策定を、市民の市政参画への機運醸成の機会とするとともに、行政内部で共通の価値観を持ち、部局間の連携を図りながら一貫性のある施策を展開していく契機とすることとしました。

新たな基本構想は、６万人を超える多くの市民から様々なご意見を頂きながら、審議会において議論を積み重ね、策定されました。この基本構想は、計画終期を設けておらず、いつの時代でも変わることのない神戸の“基本理念”として、神戸がこれからも大切にし、未来に紡いでいく価値や、未来に向かって目指すべき姿が描かれています。

基本構想の下位となる新たな基本計画については、神戸のこれまでの歴史や現状、多様化・複雑化する社会課題を踏まえながら、100 回を超えるワークショップを通じて多くの市民や関係者とともに議論を重ね、WEB アンケートや GIGA スクール端末を活用した小中学生等からの意見も含め、総勢５万人を超える参画を得て、2035 年の神戸のありたい姿とその実現に向けた方向性を、2026 年度から 2035 年度までの 10 年間の指針として策定しました。

基本計画に掲げる都市像の実現に向けて、具体的な施策を着実に展開していくためには、これを実行段階へと落とし込む実施計画の策定が不可欠です。

神戸 2030 ビジョンは、基本計画の前半５年間（2026 年度～2030 年度）に取り組む基本政策及び主な施策、その進捗状況を測る KPI を体系的に整理した実施計画として策定しました。

（２）地方版総合戦略との位置づけ

総合基本計画は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、兵庫県の「地方版総合戦略」、「神戸人口ビジョン」を踏まえた、「地方版総合戦略」としての位置づけも有します。

２　神戸市基本構想

（１）全文

神戸は、海と山に囲まれた
美しいみなとまちです
開港以来、海外との交流を重ね
文化や流行を日本に生みだしてきました

神戸は、多彩な表情を見せるまちです
都会と里山の共存
洗練されたまち並みと下町の活気
まちに溶け込む坂道も
毎日違う風景を見せてくれます

神戸は、人間らしい
あたたかみのあるまちです
ともに困難を乗り越えていく絆
多様性があふれる開かれた気風
いつでも神戸は
すべてのひとをやさしく包み込みます

これまで神戸には多くのものが
受け継がれてきました
これからも神戸は
世代や立場を超えた繋がりの中で
広く内外に貢献し
未来に向けて進んでいきます

培ってきた技術と知の集積により
時代を彩る産業とひとが育つまちへ
世界を臨む海や空からひとが集い
新たな価値の創造を実現するまちへ

誰もがひとに寄り添い、助け合いながら
それぞれの夢に挑戦できるまちへ
豊かな自然とひとの営みが織りなす
一人ひとりが幸せを感じられるまちへ

神戸は、いつまでもまちの誇りを育み
次代に紡いでいきます

（２）神戸らしさ

基本構想の前段には、神戸の歴史や都市のなりたちに触れながら、**「海と山に囲まれた美しいみなとまち」、「多彩な表情を見せるまち」、「人間らしいあたたかみのあるまち」**という３つの神戸らしさが描かれています。

神戸は大都市でありながら海と山といった自然に恵まれ、古くから「進取の気風」に富む、国際色豊かな港町として発展し、新たな流行や文化を生み出してきました。人の手が入り続けることによって緑滴る山になった六甲山、茅葺民家が点在する里山、古くからの景勝地、須磨や垂水の海岸、外国風の建物が残るまち並みや、多くの人で賑わう市場、風情あふれる下町、身近にある坂道からの眺望も、先人たちが守り育ててきたものです。また、神戸は、戦災や水害、震災など多くの試練に直面する度に、まちを愛する人たちが、国籍や人種を超え、それぞれを尊重しながら支え合い、乗り越えてきました。この絆があるからこそ、神戸には多様な主体が互いに認め合い、助け合う優しさを感じることができます。

（３）ありたい姿

中段には、先人たちが育み、受け継がれてきたこれらの神戸らしさを、これからも守り、活かし、高めながら、世代や立場を超えたつながりの中で広く内外に貢献し続けていくことが謳われています。

そして、後段には、多くの市民の方々からいただいたご意見・メッセージが凝縮され、未来に向けて神戸のありたい姿として描かれています。**「時代を彩る産業とひとが育つまち」、「新たな価値の創造を実現するまち」、「それぞれの夢に挑戦できるまち」、「一人ひとりが幸せを感じられるまち」。**これらは、いずれも先人から受け継いだ神戸らしさを活かし、さらなる歩みを進めるにあたっての指針です。市民の皆様とともに作り上げた神戸のありたい姿を追い求めていくことで、まちを愛する心が生まれ、まちの誇りが育まれます。基本構想には、このような、いつまでも、神戸らしさを磨き、まちの誇りを育み、次代に紡いでいきたいという市民の想いが込められています。

３　第６次神戸市基本計画 －2035 年の神戸－

（１）10 年後の都市像

①“ともに描いた 10 年後の神戸”

以下の都市像は、神戸市基本構想に掲げた基本理念や“神戸らしさ”を踏まえ、多くの市民・関係者とともに描いた 10 年後（2035 年）の神戸のありたい姿です。

人口減少や社会構造の変化が進む中にあっても、この都市像を市民・行政等の多様な主体と共有し、共通の目標をもって、ともにまちづくりを進め、海と山に象徴される豊かな自然や、歴史とともに歩んできたまちの誇りを次代へと紡いでいきます。

2035 年の神戸

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人やモノ、情報が集まり、多様な文化が行き交うことで、新たな風が吹く。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心があふれる。周辺に広がる交通網によって、人と人の出会いと交流がうまれ、まちの魅力がさらに深まる。

くらし息づく街では、個性豊かな駅を中心に、それぞれの理想のライフスタイルが形となり、ゆとりある上質な時間が流れる。

山から望めば、先人から受け継いだ農村や里山、豊かな自然が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が幻想的に彩る。海に向かえば、汽笛や潮風に迎えられ、ジャズを育んだ港町の歴史と文化芸術にふれながら、贅沢な時間に包まれる。食は、自然の恵みと人に育まれ、いつでも人々の心を満たす。

しごとや学びの場では、経験と新たな挑戦が融合し、未来を切り拓く力がみなぎる。

街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもたちの笑い声と皆の笑顔があふれ、まちのあたたかみが安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、困難を乗り越え、築いてきた、たくましい礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代への安心を生み出す。

そして、まちの誇りは、神戸を愛する人々の心によって育まれ、力強く次代に紡がれていく。

②KGI（数値目標）

KGI（Key Goal Indicator）は、神戸市が目指す「10年後の都市像」を示す数値目標です。市民の幸福度や生活の質に加え、経済指標と人口指標を組み合わせることで、神戸のありたい姿を現しています。これらのKGIは、持続可能な都市の実現に向けた強い意思を示すものであり、あえて高い目標として設定しています。

社会や地域を取り巻く環境が大きく変化する中、達成には不断の努力と創意工夫が求められますが、その挑戦の過程は市民、市政において貴重な礎となります。また、高い目標を掲げることは、神戸市の都市経営における理念と志を体現するものであり、未来を切り拓く原動力となります。

【経済指標】

・実質GDP成長率１%以上(年換算)の達成

「GDP（市内総生産)」は、市内で生み出されたモノやサービスの総額を示す数値で、この数値が上がるほど経済活動が活発になっていることを表します。「実質GDP」は物価の変動を除いた、実際の成長を表す数値です。今後、人口が減少する中でも、空港の国際化や三宮の再整備、新しい技術の導入などを通じて、経済の活力を維持・向上させ、我が国全体の目標と同じ水準である年1%以上の成長率を目指します。

・地域経済循環率※100%以上の維持

「地域経済循環率」は、市内の稼ぐ力と地域の所得の比率を示す指標で、市内で生まれた富（お金）が、どれだけ市内で使われているか等を表します。市内店舗での売上が増えたり、近隣地域からも従業員が集まる地元企業が増えるなどでこの指標は高まり、100%を超えると地域で経済が活発に循環し、独立して安定していることを示します。(100%を下回ると、ベッドタウンの傾向が見られます。）今後、神戸経済を活性化させ、地域の中で経済が循環する神戸独自の経済圏を維持・発展させることを目指します。

※地域経済循環率＝市内総生産（GDP）/市民所得

【人口指標】

・生活関連サービスを提供する市街地※の比率を維持

「生活関連サービスを提供する市街地」は一定程度人口が集積し、病院、学校、スーパーなど、生活に必要な施設が整った地域を示します。人口が減少する中でも、こうした地域を維持することで、多彩なライフスタイルが実現できる居住地として選ばれる都市を目指します。

※DID（Densely Inhabited District）地区を準用。算出は神戸市独自指標（2025年度時点）を設定

・22～39歳の社会動態の転出超過を解消

本市では大学進学などで若い世代が多く転入してくる一方、就職や結婚・子育てのタイミングで転出する人が多い傾向があります。働く場の充実、子育て支援、住環境の整備などを進め、若い世代が住み続けたいまちを目指します。

【幸福度指標】

・Well-Being指標※に基づく幸福度6.5以上、生活満足度7.0以上を確保（2025年度神戸市実績）

「幸福度」や「生活満足度」は、市民がどれだけ心身ともに健やかに、安心して暮らせているかを示す指標です。この指標は、単なる経済成長ではなく、市民一人ひとりの「暮らしの質」を重視したものであり、人口減少が進む中でも、誰もが健やかに、安心して暮らせる都市を目指します。

（数値はそれぞれの都市の市民の価値観に基づく幸福感等の平均値であり、一概に他都市の数値と比較により優劣を測るものではありません。）

※出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

（２）都市像を実現するための方向性

【基本姿勢】

今後 10 年間、神戸だけでなく、東京をはじめ全国の都市で人口が減少し、さらに加速していくことが見込まれます。この時代の流れを冷静に捉え、短期的効果ではなく、長期的な視点に立ち、**未来を見据えた都市の持続可能性を最重視**することを**基本姿勢**とし、以下の３つの方向性で取り組みを進めることで、まちの誇りを育み、次代に引き継いでいきます。

方向性Ⅰ　世界と繋がる２つの港　「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れながら、まちを発展させてきました。空港の国際化により、神戸は国内外とのつながりがより一層強化されます。多様な人材・技術・文化を取り入れ、神戸の強みと融合させることで、人・まち・しごとの魅力を高め、これからも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てながら、世界に開かれたまちとして、持続的な発展を目指します。

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や豊かな自然・文化との調和などの魅力に加え、都心・ウォーターフロント再開発による相乗効果を活かしながら、国内外へ神戸の魅力発信を強化していきます。

さらに、国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支えるものづくり、港湾、農水産、食、観光、医療・バイオ等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

こうした機能強化により、神戸の国際的な存在感を高め、新たな時代の国際都市として、市民の暮らしをより豊かにしていきます。

方向性Ⅱ　個性豊かで多様な地域の融合　「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送ることができるよう、これからも「多彩な表情を見せるまち」を守り育てていきます。

都心部では、居住機能との調和を図りながら、商業施設や業務機能の集積を進めていきます。 国内外から多くの人が訪れ、買い物やアート、食事など五感を刺激する体験ができる場を創出します。また、魅力的なビジネス環境の整備も進めていきます。

既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みを進めます。さらに、商店街などに息づく下町文化を活かし、まちの魅力と暮らしの質を高めていきます。

また、海や山、農村・里山地域など、神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進することで、自然と調和するまちの魅力を高めていきます。

そして、こうした多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持・充実させ、それぞれの日常と非日常が交わる都市空間を実現することで、市民の満足度を高め、いつまでも住み続けたいと思えるまちへ、そして、国内外から愛され選ばれる都市を目指します。

方向性Ⅲ　ともに乗り越え育んだ絆　「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障がいの有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦でき、主役になれるまちを目指していきます。

また、子育て・教育環境の充実、健康・福祉の増進や、安全で快適な住環境を支えることで、一人ひとりの笑顔を育み、誰もが安心して健やかで心穏やかに暮らせる環境をつくります。

さらに、新たなテクノロジーと先進技術を積極的に取り入れながら、地球環境への貢献や次代をリードする防災力を強化し、より豊かで質の高いくらしを実現させます。

そして、それらの取り組みを世界に発信することで、震災でいただいた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、国内外に貢献していくまちを目指します。

第２章　実施計画

１　概要

実施計画では、基本計画に掲げる都市像の実現に向けて、今後 10 年間に取り組む３つの方向性を踏まえ、今後５年間の基本政策及び主な施策を掲げるとともに、その進捗状況を測定するための KPI（Key Performance Indicator）を設定しています。

また、KPI は行政に関連する様々な指標の中から、基本計画の KGI の達成につながり、毎年の数値を把握でき、かつ市の施策によって改善が期待できる指標としています。加えて、幅広い政策分野の水準を今以上に高めることを目指すため、自治体経営の土台となる幸福度を測る Well-Being 指標の客観指標も KPI として設定しています。

なお、今後、変化の激しい時代においては、施策も柔軟に変化させることが求められるため、個別事業については、実施計画を踏まえながら、毎年度の予算編成において具体化するとともに、10 年後の都市像の実現に向けた達成度を適切に測定できるよう、必要に応じて KPI の見直し（追加・修正・削除）を行い、柔軟に運用していきます。

２　基本計画に掲げる方向性と施策

※基本計画より抜粋

方向性Ⅰ　世界と繋がる２つの港　「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れながら、まちを発展させてきました。空港の国際化により、神戸は国内外とのつながりがより一層強化されます。多様な人材・技術・文化を取り入れ、神戸の強みと融合させることで、人・まち・しごとの魅力を高め、これからも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てながら、世界に開かれたまちとして、持続的な発展を目指します。

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や豊かな自然・文化との調和などの魅力に加え、都心・ウォーターフロント再開発による相乗効果を活かしながら、国内外へ神戸の魅力発信を強化していきます。

さらに、国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支えるものづくり、港湾、農水産、食、観光、医療・バイオ等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

こうした機能強化により、神戸の国際的な存在感を高め、新たな時代の国際都市として、市民の暮らしをより豊かにしていきます。

（１）基本政策と主な施策

基本政策	主な施策
多様な交流を通じて世界で活躍する人材の育成を進める	・神戸空港の国際化への対応 ・陸海空の広域交通結節機能の強化 ・神戸経済のグローバル化推進 ・革新的な起業・創業支援 ・文化芸術・スポーツの振興
新たな時代の国際都市にふさわしい都市の魅力をつくる	・都心・三宮再整備 ・ウォーターフロント地区の魅力向上 ・都心・ウォーターフロントの回遊性向上 ・観光誘客の推進 ・森林・里山の再生 ・六甲山・摩耶山等の活性化 ・文化芸術・スポーツの振興（再掲）
圏域経済を牽引する大都市として、神戸経済のさらなる成長と国際競争力を高める	・神戸経済のグローバル化推進（再掲） ・国際コンテナ戦略港湾政策の推進 ・市内産業の活性化 ・企業誘致の推進 ・就業人口の拡大 ・農水産業の活性化 ・多様な食文化の発信と地場産業の振興 ・革新的な起業・創業支援（再掲） ・大学・企業等との共創によるまちづくり ・神戸医療産業都市の推進 ・観光誘客の推進（再掲） ・多様な大都市制度の実現・自治体間連携の推進

（２）KPI

KPI		基準値 (2024 年)	目標値 (2030 年)
1	神戸空港利用者数	361 万人/年	700 万人/年
（設定理由） 世界に開かれ持続的に発展するまちの実現に向けて、国内外とのつながりを測るための指標を設定。			
2	コンテナ取扱貨物量	277 万 TEU/年	300 万 TEU/年
（設定理由） 港湾物流業の発展による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、神戸港に関連する経済の活性化や成長の動向を測るための指標を設定。			

3	労働生産性（市内就業者 1 人あたり市内総生産） ※本目標値は、就業者数の見通しを踏まえ KGI（GDP 年＋1%）から逆算して設定 ※毎年度、就業者数の見通しを更新し、目標値を再設定	970 万円/人 （2025 年）	年率 1%増加※
（設定理由） 独立した経済圏を支える産業の創出・発展に向けて、経済成長の度合いを測るための指標を設定。			
4	大学発スタートアップ創出数	36 件 （2020～2024 年累計）	120 件 （2025～2030 年累計）
（設定理由） 知の拠点である大学が創出するイノベーションや人材を活用したスタートアップを産官学一体で支援・育成し、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、その進捗を測る指標として設定。			
5	海外展開に取り組む企業の割合※ ※市独自アンケート結果（海外展開を実施している、または実施を検討している企業）より	10% （2026 年 3 月調査予定） （2025 年）	15%
（設定理由） 世界に開かれた神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、市内企業の海外展開の動向を測るための指標を設定。			
6	都心・三宮の滞在人口※ ※年間を通じて、三ノ宮駅半径 500m圏域で 15 分以上滞在している延べ人数（携帯電話の位置情報から算出した推計値）	6,300 万人/年	7,200 万人/年
（設定理由） 都心・三宮再整備による新たな国際都市にふさわしい都心の実現に向けて、都心部の賑わいを測るための指標を設定。			
7	市内延べ宿泊者数	710 万人/年	830 万人/年
（設定理由） 神戸の多彩な魅力を活かし、国内外から多くの来訪者が集い、賑わいある都市の実現に向けて、市内の観光需要を測るための指標を設定。			
8	大学・高専の新卒者の市内就職率※ ※市内大学・高専への調査結果より	15%	18%
（設定理由） 既存産業の発展と新産業の創出による、神戸経済の成長と独立した経済圏の維持・発展に向けて、神戸での雇用創出の度合いを測るための指標を設定。			

※基本計画より抜粋

方向性Ⅱ　個性豊かで多様な地域の融合　「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送ることができるよう、これからも「多彩な表情を見せるまち」を守り育てていきます。

都心部では、居住機能との調和を図りながら、商業施設や業務機能の集積を進めていきます。 国内外から多くの人が訪れ、買い物やアート、食事など五感を刺激する体験ができる場を創出します。また、魅力的なビジネス環境の整備も進めていきます。

既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みを進めます。さらに、商店街などに息づく下町文化を活かし、まちの魅力と暮らしの質を高めていきます。

また、海や山、農村・里山地域など、神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進することで、自然と調和するまちの魅力を高めていきます。

そして、こうした多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持・充実させ、それぞれの日常と非日常が交わる都市空間を実現することで、市民の満足度を高め、いつまでも住み続けたいと思えるまちへ、そして、国内外から愛され選ばれる都市を目指します。

（１）基本政策と主な施策

基本政策	主な施策
五感を刺激する体験と魅力的なビジネス環境を創出する都心をつくる	・都心・三宮再整備（再掲） ・ウォーターフロント地区の魅力向上（再掲） ・ポートアイランド・六甲アイランド・HAT 神戸の活性化 ・文化芸術・スポーツの振興（再掲） ・多様な食文化の発信と地場産業の振興（再掲）
ゆとりある上質な暮らしが生まれる既成市街地・ニュータウンの再生を推進する	・駅周辺のリノベーション ・オールドタウン対策 ・空き家空き地対策の推進 ・商店街・小売市場の活性化
海と山を感じる豊かな自然を次代につなぐ	・森林・里山の再生（再掲） ・農村地域等の賑わい創出 ・農水産業の活性化（再掲） ・六甲山・摩耶山等の活性化（再掲）

個性豊かなまちなみをつなぎ日常と非日常が交わる都市をつくる	・公共交通の維持確保 ・既存ストックの有効活用 ・多彩なライフスタイルを実現する住宅供給・流通促進 ・自転車利用環境の整備 ・まちの緑・公園・街路樹の有効活用 ・観光誘客の推進（再掲）

（２）KPI

KPI		基準値 (2024 年)	目標値 (2030 年)
1	都心・三宮の滞在人口※（再掲） ※年間を通じて、三ノ宮駅半径 500m圏域で 15 分以上滞在している延べ人数（携帯電話の位置情報から算出した推計値）	6,300 万人/年	7,200 万人/年
（設定理由） 商業・業務機能の集積と魅力的なビジネス環境の整備により、国内外から多くの人が訪れる都市の実現に向けて、都心部の賑わいを測るための指標を設定。			
2	駅勢圏が生活関連サービスを提供する市街地※にかかる市内鉄道駅の１日当たり乗降客数 ※一定程度人口が集積し、病院、学校、スーパーなど、生活に必要な施設が整った地域（DID 地区）	128 万人/日	基準値を維持
（設定理由） 既成市街地やニュータウンにおいて、駅を中心とした生活利便性の向上や職住近接の取り組みにより、持続可能な地域社会づくりに向けて、駅周辺の人流を測るための指標を設定。			
3	公共交通分担率※ ※人々の移動全体に占める鉄道やバス等の公共交通機関利用の割合を示す指標	33.1% (2025 年)	35%以上
（設定理由） 多彩なまちなみをつなぐ公共交通網の維持・充実を通じて、理想のライフスタイルを送ることができるまちの実現に向けて、公共交通網の充実度を測るための指標を設定。			
4	商店街・小売市場エリア※のにぎわい ※年間を通じて、設定エリアの圏域で 15 分以上滞在している延べ人数（携帯電話の位置情報から算出した推計値）	3,300 万人/年	基準値を維持
（設定理由） まちの魅力と地域生活を支える商店街・小売市場の活性化に向けて、地域住民や来訪者による商店街・小売市場エリアの賑わいを測るための指標を設定。			
5	里山林管理による森林資源の循環量	100 ㎥/年 (2025 年)	300 ㎥/年
（設定理由） 神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進し、自然と調和した魅力あるまちの実現に向けて、里山林の管理状況を測るための指標を設定。			
6	農村地域での農業参入・起業・移住数	120 件/年 (2020～2024 年平均)	基準値以上
（設定理由） 神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進し、自然と調和した魅力あるまちの実現に向けて、農村地域の賑わいを測るための指標を設定。			

※基本計画より抜粋

方向性Ⅲ　ともに乗り越え育んだ絆　「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障がいの有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦でき、主役になれるまちを目指していきます。

また、子育て・教育環境の充実、健康・福祉の増進や、安全で快適な住環境を支えることで、一人ひとりの笑顔を育み、誰もが安心して健やかで心穏やかに暮らせる環境をつくります。

さらに、新たなテクノロジーと先進技術を積極的に取り入れながら、地球環境への貢献や時代をリードする防災力を強化し、より豊かで質の高いくらしを実現させます。

そして、それらの取り組みを世界に発信することで、震災でいただいた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、国内外に貢献していくまちを目指します。

（１）基本政策と主な施策

基本政策	主な施策
多様な主体や団体の協働や支え合いにより、誰もが安心して夢に向かって挑戦できる社会をつくる	・地域活動の支援 ・大学・企業等との共創によるまちづくり（再掲） ・外国人との共生 ・いきいきと活躍できる場の創出 ・文化芸術・スポーツの振興（再掲）
子育てと仕事の両立を支え、こどもたちの健やかな成長と豊かな感性を育む	・子育て世帯の経済的負担の軽減 ・子育て環境の充実 ・女性活躍の推進 ・教育・保育環境の充実、保育人材の確保 ・教育環境の充実 ・体験機会の充実 ・こどもの外遊びの推進 ・コベカツの推進

きめ細かい多様な支援により誰もが安心して健やかに暮らせる環境をつくる	・健康づくりの推進・医療の充実 ・高齢者施策の充実 ・障害者施策の充実 ・不登校児童生徒に対する支援 ・児童虐待防止対策の強化 ・孤独・孤立対策 ・生活困窮者等に対する支援 ・地域活動の支援（再掲）
ともに困難を乗り越えてきた絆と経験を活かし、あらゆる危機から市民の安全・安心を守る	・災害対応力の向上 ・救急医療・消防体制の強化 ・くらしの安全・安心を守る ・高温常態化対策 ・物価高騰に対する生活支援 ・安全で快適な住環境を支える ・森林・里山の再生（再掲）
既存資源を活かしながら新たな価値創出と循環型社会に貢献する	・持続可能な資源循環の促進 ・再生可能エネルギーの拡大 ・水素スマートシティ神戸構想の推進 ・森林・里山の再生（再掲）
デジタル技術の活用と行政機能の強化により、便利でわかりやすい市民サービスを提供する	・デジタル化による市民サービスの利便性向上 ・行政施設の機能強化
国内外に貢献する持続可能な大都市をつくる	・多様な大都市制度の実現・自治体間連携の推進（再掲） ・行政基盤を支える働き方改革の推進 ・EBPM の推進

（２）KPI

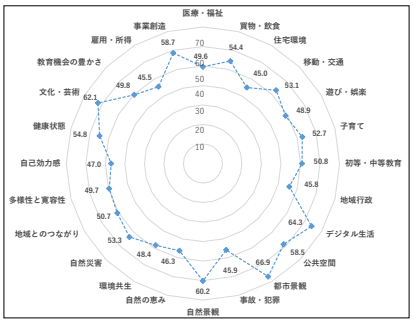
<table>
<tr><th colspan="2">KPI</th><th>基準値
(2024 年)</th><th>目標値
(2030 年)</th></tr>
<tr><td>1</td><td>地域活動の活性度※
※「地域貢献相談窓口を通じた伴走件数」「ぼらくるの登録者数」を合わせた複合指標</td><td>3,000 件/年
(2025 年)</td><td>5,000 件/年</td></tr>
<tr><td colspan="4">（設定理由）
多様な人々が地域でつながり支え合い、誰もが安心して挑戦できる、主役になれるまちの実現に向けて、地域活動の活性化に向けた支援の状況を測るための指標を設定。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>子育て関連事業の利用者満足度※
※３歳児健診を受診する児童の保護者を対象としたアンケート結果</td><td>90%
(2025 年)</td><td>基準値以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">（設定理由）
子育て環境の充実を通じて、子育てと仕事の両立ができるまちの実現に向けて、子育て支援の満足度を測るための指標を設定。</td></tr>
</table>

3	課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだ児童生徒の割合※ ※文部科学省が小６、中３を対象に毎年実施する全国学力・学習状況調査の結果	小６　78.0% (全国平均▲2.3%) 中３　72.5% (全国平均▲5.2%) (2025 年)	全国平均以上
（設定理由） 子育てや教育環境の充実を通じて、子どもたちの健やかな成長と豊かな感性が育まれるまちの実現に向けて、子どもの主体的な学びの姿勢を測るための指標を設定。			
4	運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合※ ※スポーツ庁が小５、中２を対象に毎年実施する全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果	小５男 93.2% (全国平均▲0.2%) 小５女 85.3% (全国平均▲0.5%) 中２男 90.1% (全国平均▲0.8%) 中２女 76.4% (全国平均▲0.8%) (2025 年)	全国平均以上
（設定理由） 子育てや教育環境の充実を通じて、子どもたちの健やかな成長と豊かな感性が育まれるまちの実現に向けて、子どもの健康や運動習慣の状況を測るための指標を設定。			
5	市域における再生可能エネルギー導入量	357MW/年	500MW/年
（設定理由） 新たなテクノロジーと先進技術を活用した循環型社会への貢献による、豊かで質の高いくらしの実現に向けて、市内での再生可能エネルギーの利用の度合いを測るための指標を設定。			
6	公共インフラ（橋梁・上下水道）の耐震化率	74.3%	93.8%
（設定理由） 防災力の強化による、安心して暮らせる環境の実現に向けて、生活の基礎となる公共インフラの耐震化度合いを測るための指標を設定。			
7	新たな市政課題に対応するために創出した時間数	－	50 万時間/年
（設定理由） 人口減少や東京一極集中が進む中においても、複雑化・多様化する市政課題に対応し、行政サービスの質の向上と持続可能な行政運営の実現に向けて、「やめる・へらす・かえる」の視点や AI 等を活用した業務改革により既存業務の効率化・最適化を推進し、その成果を測るための指標を設定。			

○Well-Being 指標に関する KPI

KPI	基準値 (2025 年)	目標値 (2030 年)
Well-Being 指標の客観指標	全指標の平均値 52.6	基準値以上

（設定理由）
神戸市独自の KPI に加え、自治体経営の土台となる幸福度を測る Well-Being 指標の客観指標を KPI として設定することで、幅広い政策分野の水準を今以上に高めることを目指すとともに幸福度に関する KGI の達成に向けた進捗状況を測る。また、必要に応じて主観指標も参考値として活用する。



出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート
「地域幸福度（Well-Being）指標」

【参考】Well-Being 指標の概要

国が推進する「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、Well-Being 指標の活用が進められています。この指標は、総合指標（幸福度・生活満足度）を最上位に置き、その要因を客観・主観両指標から分析するものです。

客観指標は、統計調査の結果等により自治体の施策の状況等を客観的に測定する指標であり、主観指標は、市民の主観によるアンケートにより各施策の市民への浸透度合い等を測定する指標です。

※Well-Being 指標の詳細内容及びダッシュボートは下記 URL を参照
https://well-being.digital.go.jp/

資料４

新たな総合基本計画の推進について

神戸2030ビジョン推進会議（R8.1.14）での委員意見

- ✓ 今後、市民や関係者と計画を**推進していくことが重要**。数年単位でKPIに取組むなら、**参画したいという企業もいる**。私たちも**神戸市と協力しながら取組みを進めていきたい**。
- ✓ 計画策定に向けて、**市民とともに神戸の未来を描く取組み**はとても良かったので、**今後も継続して実施**してほしい。
- ✓ **KPI達成のために自分たちに何ができるか**を大学生に考えてもらう機会を設けることによって、**神戸市がKPIを軸に動いていることの理解**が進み、**自分事化や思考力の向上**につながると思う。

⇒総合基本計画の策定を通じて培われた市民参画の機運を一過性のものとしないために、策定後も**計画を市民に周知・浸透**させ、市民が**自分事として共感**し、**ともに計画の実現に向けて取り組めるようにすることが重要**。

総合基本計画の推進に向けた今後の取組み

○市民フォーラム

広く市民に向けて総合基本計画の内容の浸透を図るとともに、神戸に関わる多様な主体とともに計画を実現していく起点とすることを目的に開催。

日程：令和８年５月上旬を予定
場所：三宮駅周辺
内容：①総合基本計画の説明
②パネルディスカッション
（例）自分たちが神戸のためにできること、していること
計画の実現にむけた多様な主体の共創のアイデア　等

○ワークショップ・出前トーク等

市民に計画を説明し、それぞれが神戸のためにできることを考え、行動してもらうきっかけをつくるとともに、取り組みを通じて市政参画意識やシビックプライドの醸成につなげる。

対象：学校・企業・地域団体　等
内容：①総合基本計画を題材に神戸の歴史、特徴、現在の取組み等を紹介
②計画の実現に向けて「**自分たちに何ができるか**」**を考えるワーク**を実施

ワークの内容は対象のご意向に応じて柔軟に対応

総合基本計画の推進に向けた今後の取組み

＜ワークショップの実施に向けて検討中の案件＞

- **大学（石川委員）**
  - ➢KPIの達成に向けて、大学生と地元企業が連携して自分たちなら何ができるかを考え、実践する授業のパッケージについて検討。

- **企業（中村委員）**
  - ➢市内企業とのパイプを活かし、総合基本計画を市内企業にPRし、CSR活動としてKPI達成にコミットする企業を募る取組みを検討。

- **教育委員会事務局**
  - ➢児童生徒が総合基本計画を学び、「自分たちは何ができるか」を考える内容の授業をプログラム化し、KoLaBo※に登録し、各学校で連携授業を展開する方向で検討。

※企業・大学等との連携による特別な体験を通じて、社会とつながる多様な学びを充実させることを目的に、オンライン上で学校と企業をマッチングできる教育連携システム。

- **高校（複数校）**
  - ➢生徒が総合基本計画を学び、「自分たちは何ができるか」を考え、実践する一連の取り組みを、探究学習としてパッケージ化する方向で検討。

（参考）

神戸2030ビジョン推進会議開催要綱

令和７年７月16日　企画調整局長決定

（趣旨）

第１条　神戸2030ビジョンを策定及び推進するにあたり、専門的な見地から幅広く意見を求め、計画の全体構成に関する検討及び、計画の進行管理の検証や改善に関する検討を行うことを目的として、神戸2030ビジョン推進会議（以下「有識者会議」という。）を開催する。

（委員）

第２条　有識者会議に参加する委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 専門的知識や経験を有する者

(3) 前各号に掲げる者のほか、市長が特に必要があると認める者

２　前項の規定により委嘱する委員の人数は、15名以内とする。

３　前項までに定める他、市長は、特定の事項について専門的知識を有する者を臨時委員として参加させることができる。

（任期）

第３条　委員の任期は、委嘱の日から令和12年９月30日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長の指名等）

第４条　企画調整局長は、委員の中から会長を指名する。

２　会長は、会の進行をつかさどる。

３　企画調整局長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、前項の職務を代行する者を委員の中から指名する。

（有識者会議の公開）

第５条　有識者会議は、これを公開とする。ただし、次のいずれかに該当する場合で、企画調整局長が公開しないと決めたときは、この限りでない。

(1) 神戸市情報公開条例（平成13年神戸市条例第29号）第10条各号に該当すると認められる情報について意見交換を行う場合

(2) 有識者会議を公開することにより公正かつ円滑な有識者会議の進行が著しく損なわれると認められる場合

２　有識者会議の傍聴については、神戸市有識者会議傍聴要綱（平成25年３月27日市長決定）を適用する。

（施行細目の委任）

第６条　この要綱に定めるもののほか、有識者会議の開催に必要な事項は、企画調整局政策課課長が定める。

附　則（令和７年７月16日決裁）

（施行期日）

１　この要綱は、令和７年７月16日より施行する。

（要綱の失効）

２　この要綱は、令和12年９月30日限り、その効力を失う。